

都城北諸文化情報誌 第5号

おてんじょだけ

平成 16 年 6 月 24 日

※「おてんじょだけ」とは、高千穂峰のことをいい、「御天上獄」と書きます。

昔から都城盆地内に住んできた私達の祖先はこの山を「父なる山」と崇め、こう呼んできたのです。



都北社会教育協会 文化振興部会

都城市教育委員会文化財課・三股町教育委員会生涯学習課・山之口町教育委員会社会教育課
高城町教育委員会社会教育課・山田町教育委員会社会教育課・高崎町教育委員会社会教育課

1 第5号の発刊にあたって

本会は、皆様から頂きましたアンケートをもとに、子供から大人まで理解しやすい情報誌を目指して発刊しております。作成の上で、利用して頂いた皆様の意見・感想が重要となりますので、どしどしお寄せ下さい。今後とも、さらなるご愛用よろしくお願い致します。

さて、第5号では、ジャンルにとらわれず、各市町の一押し文化財を揚げてみました。不明な点や詳しく知りたい方は、お気軽に最寄の教育委員会へお問い合わせ下さい。

都城市

今町一里塚

いままちいちりづか

今町一里塚は都城市と志布志町を結ぶ国道 269 号線の末吉境近くの道の両側にあります。

一里塚は慶長 9 年 (1604 年) 江戸幕府が日本橋を基点に五大街道に築いたのが始まりとされ、全国に普及しました。薩摩藩の街道は鹿児島下町札の辻を起点として塚を築き、それぞれの里数を記した標柱をたてました。今町塚は「鹿児島下町札の辻から 33 里」の標柱が立っていました。

昭和 10 年には一里塚としては九州でも数少ない国指定の史跡となりました。



『都城市史 別編 民俗・文化財』『都城市の文化財』より

山田町

山田のイチョウ

昭和14年(1939年)県天然記念物に指定されたものです。

この雌木のイチョウは、2本の大きな乳根をつけ、幹上部にはネズミモチやナンテンの若木を寄生させています。毎年たくさんの実をつけ、9リットルもの実を恵んでいます。

イチョウの生い立ちについては、藩主に従って出陣した永井家の祖先が、負傷したため、ついで持ち帰った杖を畑に挿したところ、いつの日にか根付いたものと語り継がれています。

樹高約47m、幹周約8m、推定樹令700年



高崎町

高崎町古墳

高崎町古墳は、高崎町大字江平と大字縄瀬にまたがってあります。昭和17年に宮崎県の史跡に指定されました。今から約1,500年前につくられた当地方の有力者のお墓で、大きく分けると塚原地区と横谷地区の二つの地区に分けられます。

どちらも、付近に水田になる広い低地が開けた高台にあります。現在は、塚原地区に19基・横谷地区に6基あります。

塚原地区に前方後円墳が1基あります。この古墳は、前方後円墳としては北諸地方最大で最古の古墳です。この地方を代表する人物のお墓かもしれません。他の古墳はすべて円墳です。古くは数十基あったと伝えられていますが、開墾などのためなくなった古墳もかなりあるようです。このなくなった古墳の中で、県内最大の方墳があったことが大正時代に書かれた本に出てきます。



高城町

観音瀬

観音瀬は大淀川の上流、高崎町轟、高城町有水八久保にあります。ここ観音瀬一帯は火山が噴火した際の火砕流が長い時間をかけて固まった「容結凝灰岩」という岩盤できており、川幅が狭く急流で、昔はその北側が滝になっていました。上流には急流を下る小石などによって少しずつ岩が削られ、その穴に小石などが落ち込み、回転し大きな穴となった「甌穴」と呼ばれる地形が広がっています。

現在、観音瀬には2本の水路が走っています。高崎側の水路は江戸時代、高城側は明治時代に作られたものです。江戸時代、観音瀬は一帯に広がる岩盤とその先端にある滝により、船での行き来ができない状態でした。そのため船の入れない上流の岩場から滝の下にかけて長さ約90mの溝を掘る工事が行われました。それが現在まで残る高崎側の水路です。この水路の完成により鹿児島、都城、小林などの産物を、都城より宮崎赤江港まで船で直接運ぶことができるようになりました。



山之口町

昔から親しまれている山之口の「弥五郎どん」

昔むかし、宮崎県で一番高い「尾鈴山」に腰かけて海で顔を洗うほどの大男がおったそうな。その大男が歩くと足あとが谷や池になったりするほどー。

山之口にはそんな民話が今も語り継がれています。

それから長い年月がたちました。今では「弥五郎どん祭り」となり、祭り行列の一番前をのっし、のっしと歩いています。

山之口の弥五郎どんの身長は4m余りで、台車にまたがり、麻布の着物をつけ、腰には大小2本の刀を差し、顔は赤く、大きな耳、頭に鉄製のほこをつけています。

この弥五郎どんに触れると病気をせず一年中元気であると言われ昔から親しまれています。



三股町

日州寺柱番所(関所)跡

寺柱番所(関所)跡は、三股町大字宮村字尾崎にあります。

平成2年4月1日には、梶山の番所(関所)跡に続き、三股町指定文化財第5号に認定されました。寺柱番所は、『庄内地理志』によれば、都城来往口より東に向かう寺柱街道の終点にあり、三十六里塚、中之峠を経て、牛の峠を越して飢肥領に通じました。この通路は、江戸時代上使の通路で、寛永10年の上使小出対馬守一行が来たのが始まりとされます。

なお、この関所には三ヶ所の辺路番所がありました。



幕府巡見使(国廻り上使)寺柱到着年表

到着年	月日(旧暦)	都城領主
寛永10年(1633)	8月11日頃	14代: 忠亮
寛文7年(1667)	8月下旬	17代: 忠長
天和元年(1681)	8月29日	18代: 久理
宝永7年(1710)	8月25日	19代: 久龍
享保2年(1717)	8月4日	19代: 久龍
延享3年(1746)	8月12日	20代: 久茂
宝暦11年(1761)	7月19日	20代: 久茂
寛政元年(1789)	6月25日	22代: 久倫
天保9年(1838)	7月17日	24代: 久本

※『ふるさとみまた』第16号「寺柱街道と幕府巡見使」

(佐々木 綱洋氏)より抜粋

2 ブレイクタイム

最近、我が子が、方言の達人のごとく普段の生活で方言を連発していることに気づいた。職場の若者F君は、私の日常会話の半分ぐらいしか理解できないそうだが、そのことを考えると、我が子は、自然と家庭の中で(いったい誰の影響?)、言葉の文化「方言」保存に貢献していると言えるのだろうか? うーん。そこで、いきなり皆さんに方言クイズ

- ① そら ② はざぐん ③ さんごじゅうご ④ ちょか ⑤ ちょかきい

4477 8888 9999 0000 1111 2222